

## 病院長 就任のご挨拶

皆さまには、常日頃より患者さんのご紹介や移行(期)医療といった医療連携において、多大のご支援、ご協力を頂き、ありがとうございます。

私は、このたび木内恵子前病院長の後任として4月1日より大阪母子医療センター病院長に就任いたしました川田博昭です。38年間(小児)心臓外科医として働いてまいりましたので、小児科、産婦人科の皆さまにはなじみが薄いかと存じます。この機会に、ご支援、ご協力への御礼を申し上げるとともに、自己紹介をかねてご挨拶させていただきます。

私は1980年に大阪大学医学部を卒業したのち心臓外科医を志しました。当センターには1994年7月に奉職し、以後、心臓外科主任部長を経て、2016年4月より2年間、副院長を勤めてまいりました。

常々「当センターの敷居が高い。」とのおしかりの言葉を皆さまから頂戴してまいりました。そういったお声にいかに応えていくべきか、試行錯誤をし、ここ数年は不十分ながらも改善しているのではないかと思います。診療科数を増やし、それと同時に医師、看護師、医療技術職員の定員確保に手を尽くした結果、当センターでカバーできる患者さんの範囲が広がったと考えています。

例えば、1994年6月の当センターフルオープン時と現在を比較しますと、病床数は363床から343床に減少したものの、診療科数は22から26に、全医師数は101名から168名に増加しております。特に、2014年の新手術棟開設に伴うPICUの増床と小児集中治療科医師の増員により、救急指定病院にはなっていないものの、ご紹介いただいた救急患者さんを断らない医療が可能となっております。

本年4月1日には8床の急性期病棟を再開棟し、救急患者さんの受け入れ態勢をさらに強化しました。今後も急性期医療を充実させ、皆さまのご協力により移行(期)医療を推進するとともに、次の時代にむけて必要度が増すであろう慢性期医療の拡充についても努力してまいります。

さらに、本年1月の医療連携ニュースでお伝えしましたように、患者さんからの相談やセカンドオピニオン受付の受け入れ窓口としての患者支援センターやPICUホットライン、小児がん・白血病ホットラインなどの設置・充実により敷居を少しでも低くするべく努めるとともに、地域医療連携システムの構築をすすめてまいります。

病院長が代わりましても当センターがめざす医療は変わらないことをお伝えしたいと考えます。これまで通り、皆さまと一緒によりよい医療を推進する所存でおります。皆さまのご支援、ご協力、よろしく願い申し上げます。

(病院長 川田博昭)

人事異動 (2018年4月1日付) 副院長 ▶ 光田 信明

## 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

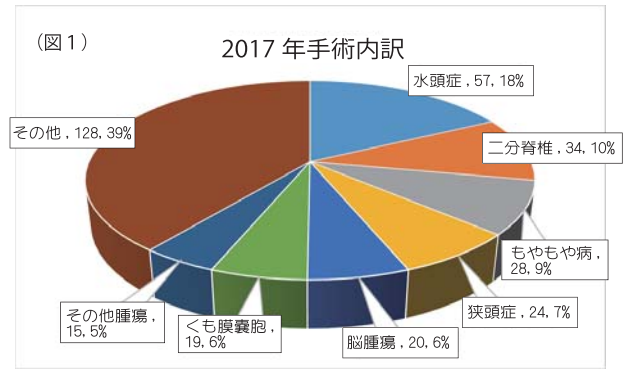
## 基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

脳神経外科

子どもは、新生児から成人までの小児脳神経外科疾患を専門に取り扱っています。1991年7月に開設され、28年の歴史があります。当科は、日本脳神経外科学会専門医・指導医3名が常勤として診療・手術にあたり、専攻医1名とともに、常勤医4名体制です。上位3名は、ともに日本がん治療認定医機構のがん治療認定医・日本小児神経外科学会の認定医でもあります。

もともと専門であった二分脊椎や水頭症に加え、脳腫瘍や頭蓋縫合早期癒合症（狭頭症）・もやもや病・くも膜嚢胞・機能脳神経外科（痙縮・拘縮をボツリヌス毒素製剤やバクロフェン髄注療法で治療）や神経内視鏡にも積極的に取り組んでいます（図1）。



◆2018年4月から、てんかん外科外来と‘あたまの形’外来を始めます◆



脳神経外科スタッフ

てんかん外科外来

大阪大学より貴島晴彦教授に来ていただき、診療・手術を行います。診察の上、てんかんに対する外科的治療の効果について検討し、手術治療を行います。

‘あたまの形’外来

あたまの形が気になるご両親が、気軽に診察を受けていただけるよう紹介状がなくても診察を受け付けます。頭蓋縫合早期癒合症などの疾患が見つければ治療を勧めます。乳児の寝癖（頭位性斜頭蓋）のお子さんは、ヘルメット治療（自費）ができることがあります。

(脳神経外科 主任部長 竹本 理)

新生児棟

新生児棟は、急性期治療を要するNICU21床(A棟)と、急性期を脱した家庭保育準備を行うGCU(B棟)21床で構成されています。

24時間体制で小児看護専門看護師や新生児集中ケア認定看護師を含む経験豊かな看護師たちが、医師と共にそれぞれの子どもとご家族にあった支援を懸命にしています。

入院中は

- ◎ 赤ちゃんの成長と安楽を考えて、お母さんのお腹の中の環境に近づけるように、光・音に配慮し、赤ちゃんの発達に良い姿勢（ポジショニング）がとれるようにケアを行っています。
- ◎ ご両親は入室して24時間面会が可能です。また、その他のご家族は外廊下からのガラス越しの面会が可能になっています。
- ◎ 心理士、理学療法士、保健師、保育士など多職種でサポートしています。
- ◎ 離れ離れで過ごすことになったお母さんが、わが子に母乳を飲ませることができるような支援や、ご両親が肌と肌を触れ合う抱っこなど親子の時間を大切にしています。



新生児棟スタッフ

今年は病院のクリスマス会にも参加しました

入院中には季節にあわせ、子どもの節句・秋祭りなどの催しをしています。退院後には小さく生まれた子どもとご家族を対象に、運動会を兼ねた交流の場として《大樹(たいじゅ)の会》や、ピアサポートとして《タンポポの会》があります。

私たちは、母子医療センターに入院してよかった、と思っただけのように支援を続けていきます。

(新生児棟 看護師長 森山 浩子 / 福井 伊左子)

医療の現場における生命維持治療の中止・不開始に関する方針については、一貫して人の生命に関わる大変重要な課題でありながら、昨今の一般国民の認識及びニーズの変化、医療提供状況の変化などに大きく影響されます。

厚生労働省は「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン(平成27年3月改訂)」の中で、「医療従事者からの適切な情報提供と説明」、「患者と医療従事者との話し合い」、「患者本人による決定」を基本に進めることが最も重要であり、多専門職種



の医療従事者から構成される医療・ケアチームによって、医学的妥当性と適切性を基に慎重に判断すべきとしています。実際の医療現場では、緊急に判断を要する場合もあり、

医学的妥当性を前提とした倫理的な判断を主治医、当該診療科など直接の関係者のみで検討するには、法的、社会的な責任が大きいです。

大阪母子医療センターでは、倫理委員会の下部組織として倫理コンサルテーションチーム(ECT)が活動しています。主治医をはじめ医療チームが、生命維持治療の中止や不開始の意思決定において医学的妥当性を前提として倫理的な判断を行う局面において、意見を求めるとともに合同で検討するチームで、他部門・多職種で構成されています。発足以来、複数回合同カンファレンスを開催し、難しい課題について、恣意的に意見を集約するのではなく、真摯に意見が交わされています。



ECTチームリーダー 井上 雅美 (血液・腫瘍科)  
ECT事務局 植田 紀美子 (臨床研究支援室)

## 診療科 新任部長のご挨拶



産科 主任部長  
石井 桂介

2010年より当センターに勤務させていただいております。これまでに賜りました多くのご支援に感謝申し上げます。時代にあった周産期医療が提供できますよう、一層精励いたす所存です。これからも、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 「親と子のとしょかん」リニューアル!

当センターには入院患者さんとそのご家族のための「親と子のとしょかん」があります。

4月2日より  
場所を移転  
しました!



靴を脱いでお母さんのお膝で本を読んでもらったり、車いすのまま本を讀んだりするスペースも出来ました。

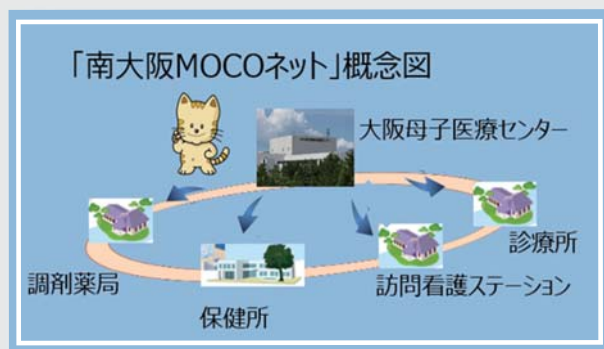
約7,000冊の児童書などを揃えたこの図書館では、絵本専門士の資格を持った司書が、テーマ展示や手に取りやすい配架などの工夫をしています。



入院中の子どもたちにもたくさんの本と触れ合ってほしいですね。

## 地域診療情報連携システムを開始しました

大阪母子医療センターでは、在宅医療の充実・推進のため、ICT(※)の技術を活用した地域診療情報連携システム「愛称:南大阪MOCOネット」を2018年3月に運用開始しましたのでお知らせします。



本システムは、患者さん(または、そのご家族)の事前の同意を前提とし、地域医療機関から紹介された患者さんの当センターにおける診療情報等を、地域医療機関等から安全に閲覧することを可能にします。それにより、医療の継続性を高め、在宅医療の推進等に益することができます。

一定のルールのもと地域の医療機関のスタッフが、当センターの電子カルテの内容を随時閲覧し、在宅児者の当センターでの経過を把握できるようになり、在宅時の医療的ケアをよりきめ細かい充実したものとすることができます。

現在のところは、まだ接続されている医療機関は数カ所ですが、今後は接続機関を増やしていき、より良いシステムに成長させて、患者さんの地域生活がより安心・安全で有意義なものになるようにしてまいります。地域の先生方もご協力をお願いします。

(※ ICT: Information and Communication Technology 「情報通信技術」の略)



2018年度も引き続きイブニングセミナーを開催いたします。事前申込みは不要です。どうぞお気軽にご参加ください。

**場所** 当センター 研究所大会議室

**時間** 17時30分～18時30分

**事前申込み** 不要 (直接会場にお越しください)



**病院見学ツアー**

実施しています。

参加ご希望の方は、事前に、患者支援センター ☎0725-55-3113 まで、ご連絡ください。



日程	テーマ	担当部署	講演者
2018年 5月10日(木)	小児の頭の形と腰仙部皮膚異常	脳神経外科	千葉 泰良
6月 6日(水)	血管腫と血管奇形～知見と治療	形成外科	西村 恵里子
7月 5日(木)	低出生体重児の予後、フォロー体制	新生児科	和田 和子
9月 6日(木)	小児がん医療最前線	血液・腫瘍科	井上 雅美
10月 3日(水)	斜視を見たら気をつけること (仮)	眼科	藤野 貴啓
11月28日(水)	小児・妊婦の鎮痛 (仮)	麻酔科	橘 一也
2019年 1月23日(水)	画像診断 (仮)	放射線科	西川 正則
2月 7日(木)	こどもの長引く咳、くり返す喘鳴	呼吸器・アレルギー科	錦戸 知喜
3月 6日(水)	小児の遺伝医療：健康管理と遺伝カウンセリング	遺伝診療科	西 恵理子

分娩者取扱者に対する  
**新生児蘇生法 (NCPR) 講習会 (Aコース) のご案内**

今年度は下記のとおり、引き続き講習会を開催いたします。

詳細は当センターのホームページをご覧ください。



- |             |  |       |
|-------------|--|-------|
| <b>日程</b>   | 2018年<br>6月9日(土)、10月6日(土)、2月2日(土)            | 2019年 |
| <b>時間</b>   | 12時30分～17時30分                                |       |
| <b>場所</b>   | 大阪母子医療センター 2階看護演習室                           |       |
| <b>参加費</b>  | 5,000円/人                                     |       |
| <b>申込方法</b> | 『受講希望日、所属先、職種、参加者名、連絡先、文書郵送先』をメールにてお知らせください。 |       |
| <b>申込先</b>  | 患者支援センター<br>Email: chiren@mch.pref.osaka.jp  |       |



**書籍を発行しました**

「**こどもと妊婦の病気・治療がわかる本**  
-大阪母子医療センターの今-



当センター所属の医療最前線で勤務する医師、看護師、コメディカル等の執筆による、子どもや妊婦の病気の治療などを、わかりやすく解説した書籍を出版いたしました。

医療関係者のみならず、大阪府民を始め広く多くの方に読んでいただき大阪母子医療センターについて知っていただくとともに、身近な存在に感じていただけたらと考えています。

※院内のコンビニエンスストア、近隣の書店、ネットショップ等で取り扱っています。

**交通のご案内**



**診察時間** : 平日 9時～17時30分  
**予約受付時間** : 平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

**大阪母子医療センター 患者支援センター**  
〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840  
【初診専用】 TEL: 0725-56-9890 (直通)  
FAX: 0725-56-5605  
【その他】 TEL: 0725-55-3113 (直通)  
FAX: 0725-56-7785  
【医師相談窓口】 MAIL: chiren@mch.pref.osaka.jp

**医療者対象  
ホットライン**

(※24時間受付直通)

【PICUホットライン】  
☎ 0725-56-1070

【小児がん・  
白血病ホットライン】  
☎ 0725-57-7677

この広報誌に関するご意見・ご要望は FAXにて患者支援センターにお寄せください。